九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Endometrial metaplasia : correlation of histological and cytological specimens obtained from 103 cases undergoing hysterectomy for endometrial carcinoma

遠峰, 由希恵

https://hdl.handle.net/2324/1398324

出版情報：九州大学, 2013, 博士（保健学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名：　遠峰　由希恵

論文題名：Endometrial metaplasia: correlation of histological and cytological specimens obtained from 103 cases undergoing hysterectomy for endometrial carcinoma
（子宮内膜化生：子宮全摘出術が施行された子宮内膜癌 103 症例を対象とした組織像と細胞像との関連について）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

子宮内膜癌は，発生率と死亡率が日本で増加傾向にある．子宮内膜細胞診は悪性腫瘍を早期発見する有用な方法の 1 つで，非侵襲的に広範囲から細胞を採取でき，疼痛や不快感が少ないことが特徴である．子宮内膜化生とは，細胞質の変化を示し，ホルモン過剰刺激が主要な要因されている．この化生は，子宮内膜癌および子宮内膜増殖症と関連して出現することが知られ，構造異型や核異型がみられる場合には，病理組織診断および細胞診断時に良悪性の判別が問題となる可能性があるが，現在までに，病理組織標本と細胞診標本の両方を用いた検討は未だ報告されていない．そこで本論文では，子宮全摘出術が施行され病理組織学的に類内膜腺癌と診断された病理組織標本と同一症例の内膜細胞診標本の両方を用いて，子宮内膜に出現する主要な化生（好酸性化生，扁平上皮化生，粘液性化生，線毛上皮化生，その他の化生）の出現頻度と対応する組織像および細胞像の特徴，子宮内膜化生と臨床病理学的特徴との関連について検討し，その理解の重要性を明確化することを目的したものである．

検討の結果，子宮内膜化生は，病理組織標本の 90/103 症例（87.4%），細胞診標本の 80/103 症例（77.7%）で確認された．病理組織標本および細胞診標本における，各化生の出現頻度は，好酸性化生が 36.0%および 43.7%，扁平上皮化生が 70.9%および 68.0%，粘液性化生が 38.8%および 19.4%，線毛上皮化生が 22.3%および 2.9%，その他の化生が 11.7%および 0%であった．2 種類以上の化生が共存していた症例は，病理組織標本の 58.3%，細胞診標本の 41.7%であった．病理組織標本において，粘液性化生は類内膜腺癌 Grade 3 症例に比し，有意に Grade 1- 2 症例で高頻度に出現した（P=0.0089）．線毛上皮化生は，子宮内膜増殖症と有意に関連性がみられた（P=0.0068）．細胞診標本において，好酸性化生および粘液性化生は，Grade 1-2 症例と有意に関連していた（P=0.0061，P=0.0385）．

以上より，子宮内膜化生は，日常遭遇する可能性が高く，多彩な組織像および細胞像を示すため，これらの形態学的および臨床病理学的特徴の理解は診断上重要であることが明らかとなった．